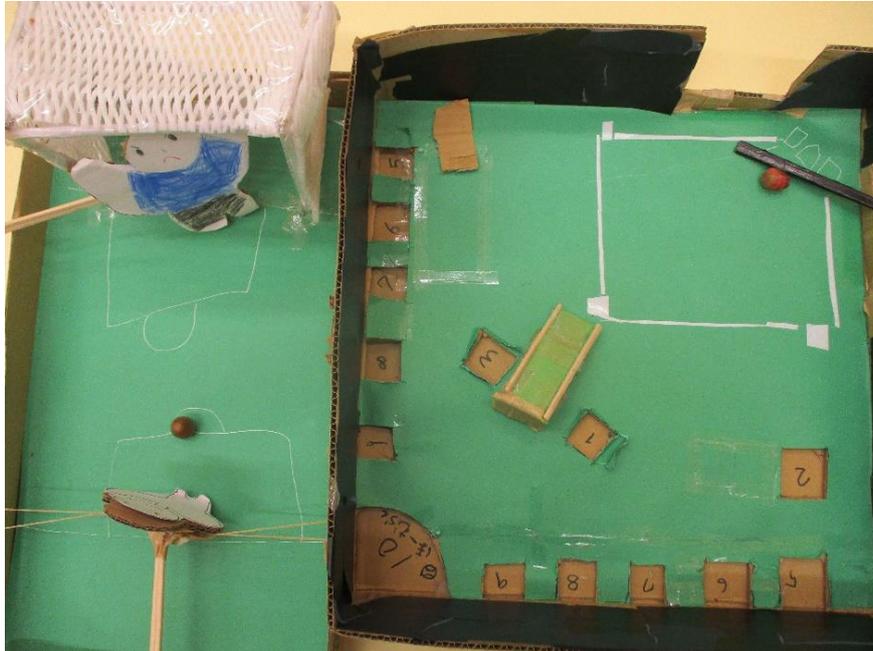


令和7年度 『様々な遊びの中で健やかに育つ子ども』の実践フォト&事例

タイトル:手づくり野球盤&サッカー盤	5歳児	つぶやき・エピソード部門	つぶやき・ エピソード部門
--------------------	-----	--------------	------------------



体を動かすことが好きで、園庭で野球ごっこやサッカーごっこをしていた子どもたち。園庭では全力で遊びますが、保育室内では何をして遊ぼうか悩んでいる様子でした。そんな時に「家で野球のゲームしたことあるで」という何気ない会話から「自分たちでつくったらいいやん!」とひらめき、野球盤とサッカー盤をつくり始めました。

つくって遊ぶことが好きな友だちが様子を見に来てアドバイスをくれたことで、アイデアを出し合いながらつくることができ、保育室でも野球とサッカーを楽しめるようになりました。

タイトル:手話とは	5歳児	つぶやき・エピソード部門
<p>『にじ』の歌を手話つきで歌うことにしました。 そのことを子どもたちに伝えた時のやりとりです。 保:「手話って知ってるかな?」 Aくん:「たくさんのあわのやつやんな?」 Bくん:「わかるわかる!シュワシュワ〜ってなるもんなあ。」 Cくん:「ねえねえ、コーラにメントスいれてもおこるやつでしょ?」 子どもたちの「シュワトーク」はしばらく続き、盛り上がったのでした。</p>		

タイトル:「どんなにおっきいお芋やろうなあ♪」	2歳児	つぶやき・エピソード部門
<p>今年度は、二歳児も畑での芋掘りを経験することができ、みんなでつるを引っ張ったり、畝を掘り返したりして楽しんでいた。</p> <p>ある日、園庭でダンゴムシ探しをしていたA児が土に埋まっている木の根っこを見つけ、「こんなところにもお芋があった!」と芋掘りが始まった。生きた木の根なので、掘っても掘っても全貌が見えない。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>『おおきなかぶ』の話が好きな子どもたちは、引っ張ったら抜けるのではないかと考えたようで、「ひっぱってみよう!」「だれか手伝って~!」と友だちが友だちを呼び、行列になってみんなで引っ張っていた。</p> <p>友だちと力を合わせて引っ張ってもびくともしないお芋(根っこ)に、A児は「全然ぬけへんわ!どんなにおっきいお芋やろうなあ♪」と楽しみに、今でも園庭に出るとお芋掘り継続中です♪</p> <div style="text-align: right;">  </div>		

タイトル:じしん違い	4歳児	つぶやき・エピソード部門
<p>朝の会で地震についての話をしていた時の事です。</p> <p>保:「地震が来た時は窓を開けますよ」と避難の仕方について話し合っていました。</p> <p>すると、Hくんが一言。</p> <p>Hくん:「ママ、じしんないってっているよ」</p> <p>日本は地震大国…おそらく地震はおきるはず…</p> <p>どうしてそんな事をいったのかなあと思いながらも、話は進んでいきました。</p> <p>すると、またHくんが</p> <p>Hくん:「ママ、じしんない」とつぶやきます。</p> <p>サブの保育者がHくんの傍に行き、リーダー保育者の伝えたいことを、もう一度伝えると、</p> <p>H:「ママ、にほんごじしんないってっている」</p> <p>保「日本語のじしん?」</p> <p>保:「なるほど…そっちの自信!？」</p> <p>外国にルーツをもつお母さんが日本語に自信がないと話しているのを聞いていたようです。</p> <p>保:「その自信じゃないんだけど(笑)。だけど、Hくんのお母さんは、日本語上手だよ。自信もってとっておいてね」と伝えました。</p>		

タイトル:「やるや〜ん」

4歳児

つぶやき・エピソード部門



「やる？」
「鬼決めしよ」



「一緒に逃げよ」



「あとで助けるわな」

保育者と遊ぶことで安定していたA児が、友だちのしている遊びに興味を示すようになり、じーっと見ている姿があったので誘うと「やる」とのことが入った。鬼決めて鬼になってしまい、心配しながら見守っていると、一生懸命走って、タッチをしていた。「疲れた」と言いながらも走り、笑顔もあった。

クラス全体の振り返りでA児に今日の遊びについて尋ねると「氷鬼が楽しかった」とのこと。すると走ることが得意とし逃げることも上手なB児が「A君にめっちゃ何回もタッチされてもうたわ」と声をかけた。するとC児が「B君のこと、いっぱいタッチしたん、すごいやん」と言い、D児が「やるや〜ん」と言うのでA児がにっこり微笑んだ。その笑顔を見たC児が「みんなでA君にやるや〜んって言おう」「せえの」みんな「やるや〜ん」と言うとA児が「ちょっと嬉しすぎやな」と笑顔だった。

翌日も氷鬼を友だちと一緒に楽しんでいる姿が見られた。A児に保育者が「今日もやるや〜んだね」と言うと鬼ではなく逃げる方だったこともあり「あんまりお友だち助けてないよ。タッチいっぱいされたし」とのこと。何でもやるや〜んではなく、頑張ったという自分の気持ちと友だちの評価が一致した時に使う言葉という認識があるようだった。友だちに認められたことから、友だちとの鬼ごっこが好きになり、友だちっていいなと感じてくれたように思った嬉しい場面だった。

タイトル:みんなー!撮るよ〜!

3歳児

つぶやき・エピソード部門



保育室前のテラスから運動会の練習をする5歳児さんを見るのが大好きな子どもたち。特にフラッグを見るのが好きで、練習が始まり、曲が流れるとすぐにテラスに座って見ていました。

そんな中、部屋では真似っこ遊びが大流行!
みんなで旗をふりふりして楽しんでいました。



運動会後も継続して真似っこ遊びを楽しむ中、「みんなー!撮るよ〜!」の声。見てみると自分たちで持ってきた椅子に座り、手には携帯電話が!写真・動画を撮っているようでした。

「こっち向いてー!」「頑張れー!」とおうちの人の真似っこをしていました。

体は小さいのに、ニコニコの笑顔を見せながら、携帯を高く上げてシャッターチャンスを待つ姿がとてもかわいかったです。

隣接する中学校からコキアを頂いた。コキアは別名「ホウキグサ」とも言われているように、乾燥させることで固くなり、縛ると市販の竹ぼうきのようなになる。そこで、子どもたちが扱いやすくいつでも使えるように小さいものを複数本つくった。園庭のテラス脇にそっとおいておくと見つけた子どもたちが「先生たちのお手伝い」「私もお掃除やりたい」とシルバーの方や保育者といった身近な大人の姿に憧れて遊びだした。

12月初旬

なんか面白そうなもの
見つけた!



これ、はきはき(掃除)するやつやん
先生みたいにやってみよう

保育納め当日

先生たちもお掃除してたから
私たちもやろうよ



前に遊んだホウキで
お手伝いしよう

だんだん、ピカピカにな
ってきた。嬉しいな

そうや!壁にびったんこ(立てかける)
したら砂落ちるやん



ホウキでパンパンしたら
ザーッと落ちたよ

(番外編)
5歳児はホウキにまたが
り魔法使いに変身!

始めは、いつでも自由に遊べる玩具として楽しんでいたホウキだったが、年末が近づき保育者が掃除をしている様子に気がつき真似っこ遊びがスタートした。しばらく遊んでいると、真似っこだけでなくホウキの扱い方にも慣れ、きれいになっていくことを楽しみだした。さらにフェンスにマットを立てかけて砂や泥が落ちやすくなるように自分たちで考えており、見事な仕事っぷりに驚かされた。



熱中症警戒アラートが出て、戸外遊びの時間が激減する環境の中、子どもたちが心から楽しめる何かをと、..



廊下に窓からトンボが入ってきたのを見つけると、大興奮の子どもたち、..

トンボに変身するアイテムを作る？

「つくりたい！」
「いつつくるん？」

完成すると、教室の中でメガネを持って大興奮

「トンボ探検隊！トンボ探検隊！」 いざ出発！！

草木を眺め

「バツおるー、おんぶバツ」



空を眺め



地面を眺め

「見て見てー！影にレンズの色見えるー！」

カラーセロファンの変化に夢中です♡

ホールでも、トンボのように飛び(走り)まわり、友だちと楽しそうに過ごせました。



カメラが気になる子どもたちが嬉しそうに寄って来て、最後はトンボのめがねをレンズにひょっこりされてしまいました～

「せんせー、あしたもトンボ探検隊したいなー」

タイトル: 「どうしたの?被せてあげるね」

0歳児

つぶやき・エピソード部門

公園に散歩へ行った0歳児ひよこ組9名。

まだ歩行ができるようになったばかりの A 児が

歩いているとバランスを崩し、

その場でしりもちをつき座り込んだ。。



その弾みで被っていた帽子も頭から落ちてしまった。

そこへ「どうしたの?」と駆け寄る高月齢の B 児。

B 児は、A 児の傍にしゃがみ込み、顔を覗き込んでいる。



帽子が脱げてしまったことに気づいた B 児は、

落ちた帽子を手に取り、

A 児の頭に帽子を被せようとする。



帽子の持ち方や角度を調整しながら

B 児に帽子を上手く被せることができた A 児は、

嬉しそうに保育者の顔を見た。

